

ライブラリー通信

ダーウィンプームの予感

昨春から、『ダーウィン著作集』(文一総合出版)の刊行が始まりました。ダーウィン生誕200周年に当たる2009年までの10年間で20巻程度の規模で刊行することです。ダーウィンの著作、あるいはダーウィンに関する図書は毎年のように刊行されていますが、まとまって全集・著作集の形で刊行されるのはほぼ半世紀ぶりになるのではないのでしょうか。これまでダーウィンの全集といえは戦前の1938年から1940年にかけて白揚社から刊行されたものと、戦後の1948年から1950年にかけて改造社から刊行されたものが知られています。

ところで、ダーウィンといえはたちどころに『種の起源』を想起される方も多いことでしょう。誰でもがよく知っている本でありながら、ほとんど誰もきちんと読んだことがない本というものがありますが、さしずめこの『種の起源』もその1冊に数えられるのではないのでしょうか。私たちは学校の生物だか歴史の授業で、このダーウィンと人生で最初に出会い、その場でダーウィン+『種の起源』=進化論と、あたかも数式でも暗記するように脳細胞に刻み込んだだけで、実際に読んでみた人はそう多くないと思います。また、読み始めたものの中で挫折したという人も多いのではないのでしょうか。

この『種の起源』、原題『On the Origin of Species by Means of Natural Selection』<自然淘汰による種の起源>が刊行されたのは1859年、ダーウィンが50歳の時です。わが国では1896年(明治29年)に立花銑三郎により『生物始源一名種源論』という邦題で経済雑誌社という出版社から刊行されたのが初訳とされています。底本とされたのは1872年に刊行された第六版で、訳者の立花銑三郎は生物学とは関わりのない文科の人で漱石の学友でもありました。彼は35歳という若さで世を去ったということもありますが、この他には教育学に関する訳書が2・3冊あるだけで特に学問的業績があるわけではなく、『種の起源』の初訳者としてその名を博物史に残した幸運な人といえるでしょう。『年表日本博物学史』(八坂書房)

『種の起源』という今日親しまれている邦題は、1905年(明治38年)に東京開成館から『種之起源』<生存競争適者生存の原理>と題して刊行された時に付けられたのが最初のようなのです。その後、1915年(大正4年)にファールルの『昆虫記』を最初に訳したことで知られる大杉栄が新潮社から『種の起原』を出してからほぼこのタイトルに定着しました。一般には『種の起源』と表記されていますが、『種の起原』としているものもあって少しばかり紛らわしい状況になっています。今日普通に入手して読むことのできるものとしては八杉龍一訳(岩波文庫)のものと、堀伸夫訳(横書店)のものがありますが、いずれも『種の起原』となっています。その他の多くは『種の起源』と表記している場合が多いようです。

今後、ダーウィンの生誕200周年に向けて出版界では、ちょっとしたダーウィンプームが起るかもしれないとひそかに思っています。生物学の偉大な先達者ダーウィンへの敬意を込めて、この機会に『種の起源』読破にチャレンジしてみたいかがでしょうか。(司書 内田 潔)

企画展のお知らせ

切手で語る魚類の世界

平成12年9月23日(土) - 11月5日(日)

日本魚類学会年会開催にあわせ、日本を代表する切手収集家・功刀欣三氏所蔵の魚類切手コレクション約1600魚種を展示し、切手という趣味を通じて魚類の多様性や水産資源の重要性を楽しみながら学べる場を提供します。9月24日には、功刀氏の講演会を開催します。魚の会共催。観覧料は無料です。

また、日本魚類学会との共催により、10月8日には公開特別講演会、9日にはシンポジウム「魚の和名を考える一差別的名称をどうするか」を開催します。

● From EDITOR

夏休みも終わり、展示室の子どもたちが少なくなりさびしくなりました。

自然に親しむことが大切といわれだして久しいですが、どれだけの人が真に親しんでいるのでしょうか? 大人になってからは、四つ葉のクローバー探しさえも遠い存在です。なんとなく先入観が先行しているのか、手をのばす機会が少なくなっています。でも、子どもたちの中には、まだまだ好奇心のエネルギーがありそうです。

たまには、日常の生活をわすれて自然にとけ込んでみましょうか。そんな時は、ちょっと博物館によってみると、新しい発見があるかもしれませんね。

催し物のご案内

「身近な自然発見講座」(野外観察)

毎回、博物館周辺(入生田)を散策しながら、それぞれの季節に見られる動植物を観察・記録していきます。

日時:10月18日(水)・11月15日(水)・12月20日(水) 10:00~15:00 雨天中止
対象:一般

申込:事前申込みは不要です。各日とも当日、博物館正面入口前にお集まりください。(お弁当持参・歩きやすい服装で)

学校5日制対応講座(野外観察と室内実習)

「化石ウォッチング」[大磯海岸と博物館]
野外で地層と化石を観察し、採集した化石を標本にして博物館に登録します。

日時:11月3日(金)・5(日) 全2回
10:00~15:00

対象:小学生以上 24人(同伴者含む)
申込:9月26日(火)~10月17日(火)

研究テクニック講座(室内実習)

「ダイバーのための魚類学入門」[博物館]

標本の作成や撮影を通して、魚についての理解を深めます。

日時:11月5日(日)・12日(日) 全2回
9:00~16:00

対象:18歳以上 10人
申込:10月3日(火)~10月24日(火)

神奈川の自然を歩く④(野外観察)

「野鳥観察会」[秦野市葦毛]

晩秋の雑木林で、カラ類を中心とした野鳥を観察します。

日時:11月19日(日) 10:00~15:00
対象:30人

申込:10月17日(火)~11月7日(火)

博物館スクール(室内実習と野外観察)

「大地の生い立ちを探る」[博物館]

楽しい野外観察や実験を通して、大地のつくりを探っていきます。

日時:11月26日(日)、12月3日(日)・10日(日)・17日(日) 全4回

10:00~15:00
対象:小・中学生と教員 20人

申込:10月24日(火)~11月14日(火)

申込方法

往復はがきに、催物名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、博物館宛てにお送りください。

ご家族など数人でご希望の場合は連名でお申し込みになれます。特に記載の無いものは参加無料です。応募多数の場合は抽選となります。当館ホームページの最新情報もご参照ください。

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/museum/g.html>

<お詫びと訂正>

本誌前号(Vol.6, No.2)の記事中に誤りがありました。11ページ図1の縦軸の説明中

(誤) log 体重(g) (正) log 脳重(mg)

13ページ主な参考資料の1行目

(誤) オーストラリア (正) オーストラリアと訂正します。

ご迷惑をおかけしました。